

水稲の生育と管理

令和7年10月号

宇佐市農政課

大分県北部振興局集落営農・水田畑地化第一班



HPにカラー版を
掲載しています
(毎月1日更新)

●水稲の管理（米づくりの仕上げ）

◆ 収穫までの水管理

● **早期落水は品質低下の原因になります。**

● 根の活力維持と登熟促進

⇒できるだけ収穫直前まで間断かん水を続け登熟向上に努めてください。

※台風の襲来が予想される場合

強風予想時は深水での止水、多雨予想時は落水をお願いします。

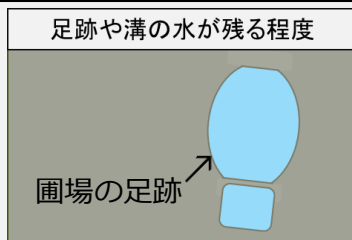
◎技術紹介_用水不足時の水管理

ひたひた水管理（飽水管理）

入水の目安：足跡に水が残る程度に乾いたら入水。

水量：水は田面にいき渡る程度。深く溜めない。

※広い水田の場合：分げつ期に溝切をしておくとも早く水が広がります。



◆ 適期収穫で品質向上

● 高品質・良食味米生産には**適期収穫**が不可欠です。

早刈り：収量低下・未登熟粒や青米の増加

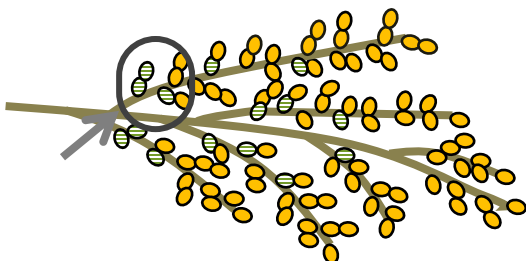
遅刈り：品質の低下（茶米、乳白米、胴割米）

● 収穫時期は①**青籾率**②**出穂後積算気温**のデータ等により**総合的に決定**しましょう。

【収穫適期：青籾率15~20%】

表：品種ごとの収穫適期目安

●：黄化籾 ○：青籾



品種	出穂後積算温度（℃）	青籾率（%）
コシヒカリ	850	20
ひとめぼれ	900	20
つや姫	1,000	15~20
なつほのか	1,050~1,150	10~15
ヒノヒカリ	950	20~25
にこまる	1,050~1,100	20

※出穂後積算気温：出穂期の翌日以降の日平均気温の合計

青籾率20%:下側2本の枝梗の根本から3粒程度に青籾が残っている状態

積算温度は目安のひとつとして活用し、実際の収穫適期は圃場ごとに青籾率を確認し、判断をお願いします。

成熟期予測は裏面へ ⇒

◆ データによる成熟期予測

〈令和7年産ヒノヒカリの成熟期予測〉（令和7年9月3日現在）

院内	田植え日	6月5日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日
	成熟期予測	9月30日	10月2日	10月6日	10月8日	10月10日
宇佐	田植え日	6月20日	6月25日	6月30日	7月5日	7月10日
	成熟期予測	10月6日	10月9日	10月11日	10月14日	10月16日

〈令和7年産なつほのかの成熟期予測〉（令和7年9月3日現在）

院内	田植え日	6月5日	6月10日	6月15日	6月20日	6月25日
	成熟期予測	9月19日	9月23日	9月27日	10月2日	10月6日
宇佐	田植え日	6月20日	6月25日	6月30日	7月5日	7月10日
	成熟期予測	9月29日	10月3日	10月8日	10月12日	10月15日

※院内：アメダス院内（標高90m）の気象データによる予測

※宇佐：農林水産研究指導センター水田農業グループ（宇佐市北宇佐、標高30m）の観測データによる予測

※気象庁の3か月予測で9月・10月も平年より高温見込みのため、平年+1℃で予測

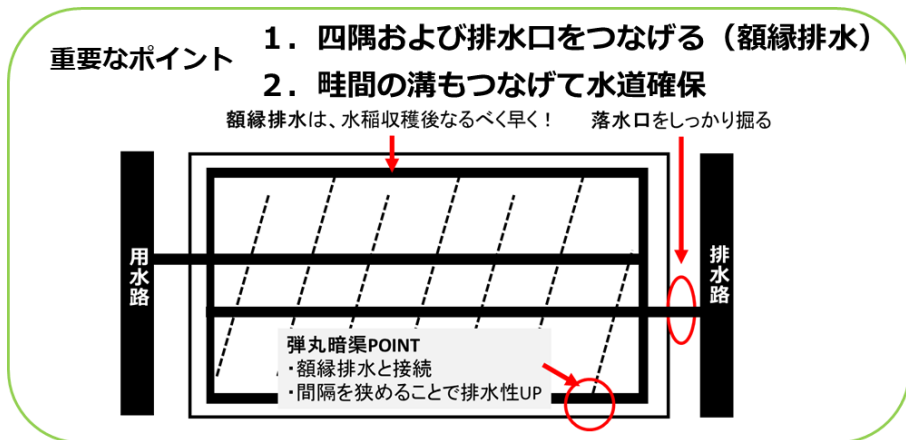
※にこまるはヒノヒカリより+5日が目安

● 水稲収穫後の圃場管理

① 麦栽培予定圃場 ◆ 麦の単収・品質は播種前の排水対策で大きく左右！

麦の栽培には、排水対策が不可欠となります。（※適期作業にもつながります）

下記のポイントを参考に水稲収穫後、できるだけ早く圃場の作業を行いましょう。



② 裏作の予定がない圃場 ◆ 次作に向けた土づくり

水稲の栽培で、土壌中の有機物は大きく消費しています。

収穫後のなるべく早い土づくりが、**次作の良い米づくり等**に直結します。

● 有機堆肥は米収穫後早めに施用

⇒有機酸(ガスの原因)は分解に時間がかかるためなるべく早い施用が必要です。

例：牛ふん堆肥 1~2t/10a

● 土壌診断の実施

⇒次作への改善に向けて土壌改良剤の具体的な施用量を把握しましょう。